

JA 東京カップ 第28回 東京都5年生サッカー 11ブロック大会 大会要項

★本資料は、現地に帯同するチームスタッフ、審判員にあらかじめ配布し、事前に確認をお願い申し上げます。
平成28年6月 東京都第11ブロック役員会発行

1, 試合方法

- * 5年生以下の16人以上のチーム編成を必須とする(上限設定なし)、内GKは2人以上を必須とする。
- * 8人制競技規則及び日本サッカー協会『2016/2017サッカー競技規則』に基いて行われるが、2016年度発表の新競技規則はJA11ブロック大会では適用しない(中央大会は新競技規則で実施)。
- * 「12分3ピリオド」方式で行う。熱中症対応で第1,第2ピリオド間は**1分**、第2,第3ピリオド間は**7分**のインターバルとする。
- * 第3ピリオドは6分経過したらプレーを中断し、エンドを入れ替えキックオフで再開する(第3ピリオドのコイントスはしない、また入れ替えの時間はランニングタイムではない)
- * 第1,第2ピリオドでは全競技者を入れ替える。競技中の戦略的交代は不可(ケガや体調不良,退場での交代は可)。
- * 第3ピリオドは自由編成・自由な交代(但し、どんなケースにおいても1人が出場出来るのは2ピリオドまでとする)。
- * 第3ピリオドでの交代は、交代ゾーンより自由に交代できるが、GKの交代は主審の許可の上アウトオブプレーに行う。
- * 第3ピリオド内で一度退いた後再出場しても、その選手の第3ピリオドでの出場は1ピリオドと計算する。
- * 試合中はケガの治療等で一時的にピッチから離れる場合を除き常に8人いなければならない。
- * どちらかが8人に満たなくなった時点でその試合は参考試合とし、リーグ戦の場合は順位の対象から除外され、トーナメント戦の場合は敗戦となる。
- * 退場者は即補充できる。但し出場時間と関係なく1選手2ピリオドまで出場制限に変わりはない。
- * リーグ戦・トーナメント戦いずれの場合でも延長戦は行わない(トーナメント時の引分けは即PK)。
- * 勝敗を決めるPK戦は3人制(以降はサドンデス)で行い、第3ピリオド終了時のメンバーが参加する権利がある。
- * 16人しかいない場合で第1ピリオドにケガや体調不良、退場となった選手がいた場合、
 - ・当初第2ピリオドに出場予定の選手が第1ピリオドに出場出来るが、その競技者の以降は第2もしくは第3ピリオドの何れかにしか出場できない。(1選手2ピリオド以内の制限)
 - ・第2ピリオドで同様の事が起きた場合は第1ピリオドに出場した選手が合流できるが、その選手は第3ピリオドに出場出来ない。(1選手2ピリオド以内の制限)
- * 大会は1次リーグ(3または4チームリーグ)、グループ上位2チーム勝ち上がりの2次トーナメント戦の勝ち上がり4チームによる決勝リーグで行い、上位3チームが中央大会に進出する。
- * リーグ戦における順位は、勝利3点、引分1点、敗戦0点の勝ち点の多い順で決定する。
勝点合計が同一の場合は①得失点(総得点-総失点)、②総得点、③当該チーム同士の勝敗、④抽選の順で決定する。

2, 登録用紙兼メンバー表

- * 参加チームは前もって所定の登録用紙兼メンバー表に必要事項を記載しなければならない。
- * 自チームの最初の試合の30分前までに、所定の登録用紙兼メンバー表に交代要員含む全選手名と選手証番号及びベンチ入り役員名(2名以上3名以下必須)と、その内最低1名の指導者証番号を記載し、顔写真を貼りシールコートされた選手証及び指導者証と共に本部運営に提出する。
- * 試合開始時から試合終了時まで、2人以上(3人以内)のチーム役員(登録用紙に記載された役員)がベンチにいること(内1名は指導者資格保持者が必須)。
- * ベンチ入りチーム役員と帯同審判が兼用の場合で、自チームの試合の前後に審判割り当てがあり、用具チェックや審判報告書の記載の為に、第1ピリオドの最初や第3ピリオドの最後の場面でベンチから離れることは可能。
- * 試合開始遅くとも5分前に行う用具及び選手登録チェック時までに再提出する登録用紙兼メンバー表には、第1ピリオドと第2ピリオドに出場する選手16名をマークで特定する。
- * チーム2試合目以降は遅れて参加する選手や指導者がいない場合、30分前の本部運営への証明書チェックは不要で、試合開始の遅くとも5分前の用具及び選手チェックの際に登録用紙兼メンバー表を提出するのみとする。
- * 遅れて参加の選手(例:2試合目からなど)は試合の30分前の手続きを済ます事が出来たらその試合に出場出来る。
- * 選手証の無い選手や用具チェックを受けて合格しない選手は、出場及びベンチ入りも出来ない(印字氏名に線引き削除)。
- * 登録するすべての選手は、必ず傷害保険(スポーツ安全保健)に加入していること。

3, ユニフォーム

- * 日本サッカー協会「ユニフォーム規定」に則る。
- * 選手番号は規定(背面:縦25cm-35cm、前面:縦10cm-15cm)サイズを適宜縮小することができる。
- * 番号表示はシャツの背面及び前面とする。ショーツには表示を推奨する。
- * 背番号・胸番号及び胸部分にチーム名(またはチーム名を示すエンブレム)の表記は必須とする。
番号はその試合において競技者を特定できるものとして、その試合を通して固有の番号であること。
- * ストッキングと異なる色のテープ(脛当て止め等)、パンツの主たる色と異なる色のアンダーパンツ(スパッツ)シャツの袖の主たる色と異なる袖の色のアンダーシャツは認めない。
- * ユニフォームのメーカーロゴの違い、ストッキングのライン数には言及しない。
- * 必ず正副持参し、必要に応じて本部によるチェックをうけること。
- * あらかじめ対戦相手と相談の上、お互いの着用するユニフォームを決めておくこと。
審判員によっては是正が必要と判断された場合は、審判員のコイントスにて負けた方が是正する。
それらは全て用具チェック集合時間(キックオフの遅くとも5分前)に影響しないように進める。
- * ゴールキーパー(GK)のユニフォームは最低2人分、同色の正副を用意する。必須事項は上記に同じ。

- ・3人目以降のGKユニフォームはその他の競技者と区別できれば、2人目までのGKとは別色の正副でも可とする。
3人目以降のGKの番号も登録用紙に記載された固有の番号とする。
- ・3人目のGKの用意がなく、GKがケガや退場などで想定外のフィールドプレイヤーがGKとなる場合は、その試合で使用していない正副いずれかのシャツで他の競技者と見分けが付く色で、本人の番号であれば着用可能。それが難しい場合、他の競技者と見分けが付く色で番号の付いていない安全なシャツなどで代用可能(ビブスは不可)。その場合、その競技者の試合に関する記録は、試合開始時のメンバー表に記載した番号として扱う。
- ・後のピリオドにフィールドプレイヤー(FP)として出場する予定のGKのパンツとストッキングは、予めFPの選手と同じものを着用してもよい。但しその選手はGK後は必ずFPとして出場しなければならない。
- * 交代要員は両チームのユニフォームと異なる色(ビブス等)を着用する。

4. 競技会規定

* 競技のフィールド

- * フィールドの表面は天然芝、人工芝が望ましいが、クレーでも可(ライン表示についてはマーカーコーンの使用可)。
- * フィールドの長さ(タッチライン)は68m、幅(ゴールライン)は50mを基本とし、照度が十分に確保されていること。交代ゾーンとして中央から両側に3mのマークを設ける。
- * ペナルティエリアは両ゴールポスト内側から12m、ゴールライン外側から12m、ペナルティーマーク8m、ペナルティーク・センターサークルの半径7m、ゴールエリア両ゴールポスト内側から4m、ゴールライン外側から4m。
- * テクニカルエリアは設置しないが、戦術指示はその都度ベンチのただ1名の指導者のみが伝えることができる。

* ボール

- * 各チームから1個ずつ、公認検定球を0.8気圧にして用具チェックの時間までに会場本部に持ち寄る。

* 競技者の数

- ・8人の競技者(うち1人はゴールキーパー)が試合に出場出来るが、第1ピリオドと第2ピリオドは全員入れ替えて別の8人で行わなければならない。第3ピリオドは自由な編成、自由な交代とする(1人2ピリオドまで出場可)。
- ・一方のチームが8人に満たない場合は試合を開始しない。試合中の負傷者・退場者は即時補充する。程度の軽い負傷で、簡単な治療後即時に試合に戻れる場合に限り、一時的にピッチから離れることは可能。

5. 審判

- * 2人制(主審・補助審判)とし、有資格者にて対応する。全チームは有資格審判員を最低1名帯同しなければならない。
- * 経験の少ない者が割当て審判を行うことが無いよう、競技規則を理解し体力的にも問題の無い審判を帯同すること。
- * 第1, 第2ピリオド間に主審と補助審判が入れ替わる、また第2, 第3ピリオド間でも再び入れ替わる。
- * 記録上は第1, 第3ピリオド担当の審判を主審、第2ピリオド担当審判を補助審判とし、主・補は互いの力量を基に相談で決める。
- * 第1ピリオド終了後全ての選手を入替え、1分後に第2ピリオドを開始できるよう両審判は協力する。
(退場選手の補充により第2ピリオドも続けて出場する選手がいる場合もある)
- * 第2ピリオド終了後はインターバル+クーリングブレイク=7分間の休息を選手に与える。
- * 第3ピリオドのキックオフの為にトスはしない。第1ピリオドのキックオフチームが第3ピリオド最初のキックオフを行う。
- * 第3ピリオドのキックオフから6分経過したらプレーを停止し、エンドを入れ替え相手方(第2ピリオドのキックオフをしたチーム)のキックオフにて再開。第3ピリオドのアディショナルタイムは12分を経過したのちに加算する。
- * 第3ピリオドの主審は試合終了後、結果報告書(運営担当者が持参)の所定欄にその試合の得点と懲戒の有無を記載し両チームの代表者に確認の署名を貰い、別途審判報告書を記載する。
- * 必ず審判服(シャツ・パンツ・ストッキングの審判セット)を着用する。審判服以外のトレーニングパンツ等は不可。
- * 審判員証を必ず携行し、必要に応じて審判を行う前に本部に提出すること。
- * ホイッスル(×2), 腕時計(×2), トス用コイン(×2), イエロー及びレッドカード, ワッペン, 記録用紙とペン等
いわゆる審判を行う為に必要なグッズを持参する。
- * 審判割り当てを他チームへ代行依頼を認めるが、同日に同リーグ内の複数チームの審判の掛持ちは不可とする。
- * ベンチ入り役員が帯同審判を兼ねる場合、第1ピリオドの最初か第3ピリオドの後半にベンチを離れることは可能。
- * 熱中症対策ガイドラインに従い、試合中のWBGT指数(本部から報告)による対応を、主審が本部と協議の上判断する。
- * WBGT指数による試合前の中止は本部で決定する。主審は中止や試合中の対応を審判報告書に記載する。

6. 懲罰

- * 本大会期間中に警告を2回受けた選手は、次の1試合は出場停止となる。
本大会終了時点で、累積警告は消滅するものとする。
- * 本大会において退場、退席を命じられた選手、役員は、自動的に次の1試合に出場できず、それ以降の処置については規律フェアプレー委員会において決定する。
 - ・競技者が退場を命じられた場合は、その競技者のチームは交代要員の中から競技者を補充する。主審は競技者が補充されようとしている間は、試合を停止する。
- * 試合開始時に選手が8名揃わない、選手証不携帯、ベンチに2名以上のチーム役員不在、有資格者不在、指導者証不携帯があった場合は試合は開始せず、ブロック委員長または副委員長、ブロック事務局のいずれかへ報告し処遇を待つ。
(失格と判断された場合、リーグ戦の場合は順位の対象から外され、トーナメント戦では敗退となる)
- * 試合中に7名以下になった場合や計3ピリオドの出場選手が発覚した場合、その試合は最後まで続けるが参考試合とし、違反の有ったチームはリーグ戦の場合は順位対象から外され、トーナメント戦では敗退となる。

- * 試合会場本部で判断ができない事象が発生した場合は、速やかにブロック事務局に確認を取ること。
- * 本協会諸規程および本記載事項にない事例に関しては、規律フェアプレー委員会にて決定する。

7. 熱中症対策

- * 日本サッカー協会の「熱中症対策ガイドライン」に従った対応を各会場で行う事を必須とする。
 - ・WBGT=31°（人工芝は28°）以上となる時刻に、試合を始めない。（キックオフ時間を設定しない。）やむを得ず行う場合は『JFA熱中症対策<A+B>』を講じた上でCoolingBreakを必ず行う。
 - ・WBGT=28°（人工芝は25°）以上となる時刻が試合時間に含まれる場合は両ベンチ・補助審判運営部分に日影を作り、氷やスポーツドリンク、経口補水液等を用意し、試合にはCoolingBreakを設ける。
- * 試合中の飲水タイムやクーリングブレイクの代わりとして、第2ピリオドと第3ピリオドの間は4分のインターバルに3分のクーリングブレイクを加え計7分間とし、その間選手に日陰での休息と飲水の機会を与える。
- * 中止や延期の判断は試合開始前もしくはピリオド間に限る。プレー中の対応・変更はしない。
- * 中止や延期の判断は試合前は本部が決定し、試合中は主審が判断し本部と協議の上、ピリオド間で試合を終了する。
- * 中止決定後本部役員が代替え日を決め両チームに確認する。代替えの試合は中止した次のピリオドから行う。
- * 運営担当者は必ず【黒球式】WBGT計測器を持参し、下記の要項に従い計測すること。
 - ・計測は必ずピッチ上で計測器の黒球が日影にならず、選手の身長²/₃程の高さに設置(吊下げか三脚に固定)する。(150cm平均と仮定した場合は約100cmの高さ・・・コーナーフラグの旗の下紐に引っ掛けると約1mになる・・・目安)
- * 全ての試合のキックオフ直前と第1ピリオド終了時、及び第2ピリオド終了時に計測を行い、運営担当者は結果報告書の指定の欄にそれぞれのWBGT指数を記載する。
- * WBGT指数に対応した場合、主審は「本部による決定で試合中止」や「試合中選手が熱中症になる可能性が起きたので第2ピリオド終了時で中断し、以降は・・・」等々を審判報告書の『その他の報告事項』欄に記載する。
- * 試合時間および第1と第2ピリオドの出場選手が異なることを勘案し、試合中の飲水タイムやクーリングブレイクは原則として行わないこととする。

8. 運営担当

- * 運営担当はチーム1名ずつ計2名で行い、選手証チェック等の本部業務と試合中の選手出入りのチェックを分担する。
- * 当日最初の運営担当者は遅くとも第1試合30分前の登録用紙チェックに間に合うよう会場入りしなければならない。
- * 運営担当者は試合前30分の登録用紙兼メンバー表の内容のチェック(選手証・指導者証との照し合せ)の他、試合前遅くとも5分前の用具・選手チェックまでにメンバー表の第1ピリオドと第2ピリオドの出場マーク欄に、それぞれ別の8名がマークされている事を確認する。
- * 選手証や指導者証の不携帯などチェック項目の不備があり、そのままでは失格になるような事態が発生したら、運営担当者は、ブロック委員長又は副委員長、ブロック事務局のいずれかに連絡して処遇を待つ。
- * 運営担当者はキックオフ前に第1ピリオドの出場選手がメンバー表と相違ない事を確認する。
- * 運営担当者は第2ピリオドの開始が遅れないように、あらかじめ第1ピリオドが終る前に両チームの第2ピリオド出場者を指名し、メンバー表にマークされた選手であることを確認しておく。
- * 運営担当者は負傷や罰則による退場者の補充で第1もしくは第2ピリオド途中から出場した選手が、計3ピリオドの出場が無いことを試合終了まで管理しなければならない。
 - ・第3ピリオドの開始前に計3ピリオドの出場者に気付いた場合は、キックオフ前に当選手の参加不可をチームに伝え、他の(その時点で1ピリオドしか出場していない)選手との交代を指示する。
 - ・運営も審判も気付かず第3ピリオドの試合中に計3ピリオドの出場者があった場合は、その時点で試合を止めて詳細確認をし、計3ピリオドの出場と確定したら審判に参考試合となることを伝える。
- * 選手の出入り、特に第3ピリオドの選手交代には注意が必要です。責任ある立場の人が運営を担当願います。
- * 試合当日最初の運営当番の上左側に記載されたチームの運営担当が、結果報告書と当日分の審判報告書を持参する。
- * 試合当日最後の運営当番の下右側に記載されたチームの運営担当が、当日全ての結果が記載された結果報告書と、懲戒罰その他の報告があった試合の審判報告書を結果報告書に記載されている宛先に速やかに配信する。
- * 結果報告書に得点と懲戒の有無を主審に記載及び署名して貰い、両チーム役員に確認の上署名をして貰う。
- * 試合中止や参考試合になった理由やその他の報告事項は、結果報告書の報告事項の欄に必ず記載する。
- * 当日の試合を終えたチームの登録用紙兼メンバー表は全て運営担当が回収し、試合当日最後の運営当番の右側に記載されたチームが、当日全試合の審判報告書と共に保管し、後日ブロック役員に手渡す。

8/21追記

- * 第1ピリオド終了2分ほど前に、第2ピリオド出場選手は運営担当前に集合しメンバー表と背番号のチェックをうける。
- * 第1ピリオド終了時速やかに出場選手がベンチ前フィールドから出た後に、第2ピリオドの選手はハーフウェイライン部分から入る。
- * 第2ピリオド終了後の7分間のインターバル中は、次試合のチームの競技者はピッチでアップ可能。
- * 第3ピリオド目のアデショナルは12分経過後に取る。6分経過時は即プレーを停止しエンドを交換しキックオフで開始する。
- * 第3ピリオド6分経過直前にPKIになった場合のみPKの結果が出るまで時間を延長させる。この時間はPK完了の為の延長でアデショナルではない。コーナーキック・フリーキックの場合は継続せず、すぐにエンドを交換しキックオフで開始する。エンド交換後のキックオフは第3ピリオド開始時にキックオフした反対のチームによって行われる。

【参考資料】

- サッカー競技規則 http://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/law_soccer_all_11_2014.pdf
- 8人制サッカー競技規則 <http://www.jfa.jp/documents/pdf/eight/rules.pdf>
- JFA熱中症対策ガイドライン http://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/k20160310_6.pdf